

だれもが希望をもって住みつづけられる村に

放射能から
子どもたちを守ります

日本共産党 東海村議会議員

川崎あつ子

いつも暖かい励ましをいただき、心から感謝申し上げます。みなさんの声や願いを議会に届け全力で4年間、前向きに行動することができました。

かつて経験したことのない、大きな地震と津波をもたらした東日本大震災は、安全神話でつくられた福島原発に、取り返しのつかない大事故を引き起こしました。この事故を契機に私たちの暮らしや、意識は大きく変化し始めています。「暮らしに安全な自然エネルギー発電で、快適にすごしたい」。お年寄りも、若者も、子どもたちも、だれもが希望をもって住みつづけられるあたたかい福祉と、防災に強い東海村をめざします。みなさんと力あわせて一歩一歩すすめて行けるよう、ひきつづき全力を尽くしてまいります。ご支援をよろしくお願いいたします。

明るい東海

2011年12月号外 発行/日本共産党東海村委員会
TEL 029-282-9031

●日本共産党の政策をご紹介します。ご意見ご感想をお寄せください。

稼働33年

東海第2原発の再稼働を許さず 安全な福祉の村を

実施をせまり みなさんと
力合わせて実現しました



- 中学校卒業までの医療費完全無料化
- 30人学級当面小学1・2年生まで村独自実施
- 小・中学生を広島平和記念式典へ平和大使として派遣
- 後期高齢者医療の保険料への村独自助成
- 県内初、介護保険会計に一般財源繰り入れ
- 産廃焼却施設建設に反対し施設着工許さず



毎年核廃絶を広島へと村役場出発 (7/4)



川根地区産廃焼却施設工事差し止め求め本案訴訟 (8/25)
近隣住民はじめ、村も村議会、農業委員会も全会一致で反対



身近なものを持ち寄り放射線量計測
8月20日議会報告会にて

- 住民の願いである白方地区小奈良東の村道舗装を今年完成させました



私たちも応援します!

困っていた時お世話になり、とても助かりました。さらなる活躍に期待します。
白方在住 埴 徳彦

子どもたちのいのちと健康を守るために、ひきつづき頑張ってください。
白方在住 吉田 千恵

みなさんの「声」と「願い」を
毎議会届けてきた
川崎あつ子議員



安全な暮らしが実現される東海村を
つくりだすために頑張ります

- 国民健康保険税、介護保険料・水道料金の値上げに反対します。
- 村立東海病院はすべて常勤の医師を配置するようもとめます。
- 30人学級の対象学年は中学3年生生までをもとめます。
- 防災計画の抜本的な見直しで地震・津波・洪水対策の強化と避難対策の確立をもとめます。
- 震災による一部損壊の住宅への修繕費助成、滑動崩落・液状化による宅地被害への支援をもとめます。
- 老朽化した東海第二原発の再稼働は認めず、廃炉をもとめます。
- 自然エネルギー研究センターをめざし、太陽光発電パネル設置助成の増額をもとめます。
- 消費税の増税を許さず、食と農、医療も崩壊するT P P参加に反対します。
- 新規就農者への助成を強め、被災した水田復旧、農業復興につとめます。
- 障害者自立支援法の廃止、「応益負担」の撤廃、当面、村独自の軽減策をもとめます。
- 公費を使った議会の海外視察はやめさせます。

プロフィール

- 1953(昭和28)年、十王町(現日立市)生まれ ● 高萩高校卒業後、日立電線日高工場に勤務。結婚を期に1976年から東海村へ
- 県視覚障害児者親の会会長、県立盲学校PTA会長、東海村男女共同参画条例検討委員、東海村まちづくり委員会福祉部会委員などを歴任
- 2008(平成20)年東海村議会議員に初当選 ● 家族：夫、二女、義母
- 白方284-1在住 自宅電話：029(282)0229
- ホームページ：川崎あつ子 [検索](#)

東日本大震災と
福島第1原発事故の被災者を支援し、
くらしを守るよう要請を行いました。



原電へ申入れ (5.12)



村長との懇談
(7.13)



県への交渉 (8.10第5回目)



政府への交渉 (10.12第2回目)

川崎あつ子議員は、日本共産党国会議員・県議会議員・地方議員団と一緒に村や県・国に、▽一部損壊住宅の復旧に役立つ住宅リフォーム制度や液状化対策
▽国と東電への放射能被害の全面補償
▽子どもたちの健康調査
▽東海第2原発は廃炉になど、みなさんの声や願いを積極的に伝え、届けてきました。

* 老朽化した東海第2原発は廃炉への計画を *

東電福島原発事故による放射能「死の灰」の放出は、大量で広範囲になっています。放射能への感受性が高い子どもたちの健康を守ることは、大きな社会的使命です。

子どもたちの健康を守るには

東海村の放射線量は、事故前の数倍以上です。放射線被ばくの健康への影響は、「これ以下なら安全」という値はありません。「少なければ少ないほど良い」というのが大原則。汚染から子どもたちを守るには、徹底した調査、迅速な除染、万全な健康調査の実施が必要です。

稼動33年の原発は廃炉へ

一方、地震によって損傷を受けた東海第2原発の検査と修理は、来年8月まで期間延長されました。稼動33年たった原発は、老朽化しています。世界の原発の廃炉平均年数は22年です。原発から30キロ圏内には約100万人が住み、全員の一齐避難は不可能です。首都圏に近く原発の立地にふさわしくないことは明らかです。だからこそ廃炉への計画が必要ではないでしょうか。

原発に代わるエネルギーは

環境省などは、現在の日本の自然エネルギーは、太陽光、中小水力、地熱、風力だけでも原発の総発電量の40倍と推定しています。自然エネルギーの本格的な導入は、エネルギー自給率を高め、新たな仕事と雇用を創出し、地域経済の振興への大きな力になります。